

# 防災教育の支援を展開 ベトナム・フエ市へ訪問団を派遣



▲チュ・バン・アン中学校のタム校長（左端：今年7月に来西）と面談



▲ファン・サオ・ナム中学校のタウンウォッチング（まち歩き）



▲地域の危険な場所などをまとめたハザードマップ作り

西条市はJICA（国際協力機構）の草の根技術協力として、12歳教育（防災教育）をフエ市に紹介し、現地に合った形の防災教育プログラムの開発を支援するため、昨年度から研修団の受け入れや訪問団の派遣などを行っています。

昨年に引き続き、今年も8月27日から9月2日までの7日間、訪問団17名をフエ市へ派遣しました。今回は、消防団員、防災士、自主防災会メンバーの方々が参加され、現地での活動にご協力いただきました。誠にありがとうございました。

訪問団は、モデル校として防災教育の展開に取り組んでいる中学校2校を訪れ、防災教育の活動計画についての意見交換や、子どもたちとのタウンウォッチングなどを行いました。

両中学校では、西条市の12歳教育をモデルに現地の先生方が考えた、子どもたちの災害への対応力や「生きたい」という気持ちを育むことを目的とする、防災教育の活動計画が紹介されました。

また、子どもたちと身ぶり手ぶりを交えながら、タウンウォッチングやハザードマッ

プ作りに取り組みました。さらに今回は新しい取り組みとして、先生方を対象に消防団員の方々による土のう作りの実演指導も行いました。丈夫で持ち運びのしやすい土のうの作り方を学んだ先生方は、興味深そうに土のう作りに挑戦したり、水害時の土のうの積み方の説明を真剣に聞いていました。

8月31日にはフエ市内で、JICA主催の草の根技術協力事業関係者交流会が開かれ、西条市のほか京都大学やNPO法人など7団体が参加しました。

各参加団体から、ベトナムでの草の根技術協力の取り組みが紹介され、課題などについての情報共有や、意見交換を行いました。

今回の訪問では土のう作りなどを通じて、市民レベルの交流を深めることができました。

現地の先生方からは「防災教育の活動計画が軌道に乗れば、他の学校にも広めたい。引き続き西条市の皆さんに協力していただきたい」との感想が述べられました。

今後も西条市の12歳教育を紹介しながら、フエ市の皆さ



▲現地の中学校の先生方に土のう作りを指導する消防団員の皆さん

んとともに現地に合った防災教育プログラムの開発に取り組んでまいります。

引き続き、西条市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。



## フエウォッチング

日本では、気候変動や消費電力の節電など、毎日のように「エコ」という言葉を耳にするようになりました。ここ、ベトナムでは、私たちが「エコ、エコ」と騒ぐ前から、とってもエコな暮らしを送っています。

ベトナム人の多くは、エコの基本である3Rが自然と身についているように感じます。リデュース＝余計なものは買わない、リユース＝使えるものは何度でも使う、リサイクル＝廃棄せず新たなものを創り出す、そんな暮らしが町を歩いていると見ることができます。ベトナムの町には、至る所に修理屋さんがあり、バイク、鍵、靴などの修理さんが並んでいます。

エコグッズを買うのも良いですが、私たちが忘れかけている“ものを大切に使う心”こそが本当のエコかもしれませんね。



▶街角の鍵の修理屋さん

フエ市防災教育支援事業 コーディネーター 中村範子